

「北九州マラソン 2024」

No.38 鷺海拓也

コロナ後のハーフマラソンの「自己目標タイム(2時間以内)」にまだ達成出来ていないので、「北九州マラソン」の「ペアリレーマラソン」に参加する事にした。リレーの相手を探していると、同じ中学校の社会科のH先生が、私の高校時代の同級生の息子さんで「フル」の経験もあったので、声掛けすると快諾であった。早速申し込んで、本番に向かっての練習に切り替える。

2月17日(土曜日)

前日の受付。一足先に小倉へ。実は、もう一組の「ペアリレー」に参加する仲間と、ここで合流する事になっている。私達に刺激を受けたのかどうかは定かでないが、同じ中学校の若手の先生2名。一人がボクシングの経験のS先生、もう一人がテニス部出身のI先生である。何とも頼もしい。しかし、S先生が急用で不参加となってしまった。

「ペアリレー」でどちらかが不参加の場合は、代理出場は認められずに一人でも参加可能だが、第一走者として参加して記録も残らず、メダルも貰えない。I先生は一人でも参加するとの意気込みである。

2月18日(日曜日)

スタート会場でI先生と合流。雨の心配は無いが、気温が高くて「暑いレース」が予想される。私達の「ペアリレー」のブロックはBのすぐ後ろである。A~Hまでと8ブロックにも分かれている中で有難いポジションである。

君原さんや増田明美など、大会ゲストの挨拶の後に「号砲」が鳴る。

5キロまでは私が先行するが、その後一緒にスタートしたI先生の姿が前に見える。「若い!」無理をせずに、後姿を追う。

八幡の折り返し地点(7.5km)で「鷺海さん、頑張っ!」と突然の声援。振り返ると大土さんであった。「走路審判員」、お疲れ様でした。うれしかった!

15キロ辺りでI先生がペースダウン。ここまで素晴らしい走りをしてきた。ここから先行して「中継所」を目指す。慣れないメーカーの「サプリ(アミノ酸)」が合わずにトイレに行きたくなる。浴道のトイレを見るとランナーが並んでいる。仕方なく先を急ぐが、今度は「オーバーペース」も祟ってか自分のペースが見つからない。ところどころで足を止める。

「中継所」までの小さな起伏も重く感じる。早く「タスキ」を渡したい。後で家内に聞くと余裕は全くなくて、「死にそうな顔をしていた」と言っていた(笑)。

結果的には、1時間58分19秒(ネット1時間56分00秒)で大役を終えた次第であった。

(まとめ)

去年は雨だったとの事だが、今年は気温が高くて暑かった。一緒に走った I 先生は、呼吸は苦しくなかったが、脚が動かなくなったと言っていた。走った後は「小倉牛はどこにあるんですか？」と聞いて来る。「後半を走らないと無いんですよ」と言うのと悔しがっていた。この若さが良い。

その後、「あさの汐風公園」で行われている「北九州ランラン食フェスタ」で 800 円の牛串を食べて満足していた。私とペアの H 先生は、1 万 2 千人のランナーの一人として、38km 地点の「小倉牛」を食べている所を突然、TV 局にインタビューを受け、しっかりとコメントしていた。すごい確率である！

私は来年出来れば、この「北九州マラソン」で「フル」に復活したいと思った。



(スタート前に、一緒に写ったI先生)

「ペアリレー」の終了後に、私の受け取った「完走メダル」を首に掛けて「先生にあげます」と言うのと喜ろこんでくれた・・・。